

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 花の里
(ユニット名)	第二グループ
所在地 (県・市町村名)	長崎県諫早市福田町3316-3
記入者名 (管理者)	石丸 智英
記入日	平成 20 年 8 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念の定着と具現化に向けて、ますます地域との関係性を強化できるよう、全職員で話し合い、理念を作りあげている。</p>	○	<p>今後も、地域や、入居者のニーズに応じて、その時々々の状態に合った創造的の理念の豊富化に向けた、柔軟な支援をしていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>わかりやすい理念になっており、職員は毎日の申し送り時に唱和しながら確認をし、理念に沿った支援に取り組んでいる。</p>	○	<p>今後もミーティング等で折に触れて、理念の意識づけをし、職員同士の意見の統一を更に図ってきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>契約書、法人で開設しているブログにも掲載し、また毎月のお便りに記載し、家族や地域の人々に理解してもらえるよう努めている。</p>	○	<p>今後も、地域の活動や、町内会等との関わりを増やし、地域の方々との交流を活発にし、広めていきたい。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的に散歩と声かけを行い、気心知った日常的な付き合いが出来るように努めている。また行事の際には案内を出し、参加を呼びかけたり、こちらも地域の行事に参加している。(お買い物、バスハイク等)</p>	○	<p>今後も、日常的な交流が出来る様に、なじみの関係作りを引き続き積極的に行ってきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>四季を通して隣接施設の行事に積極的に参加している。また、ボランティアの慰問も受け入れたり、園児との交流もあり、地元の人々との交流を深めている。</p>	○	<p>地域住民の一員として、日常的に事業所と地域が交流できるよう、今後も積極的に地域の行事に参加していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアの受け入れ、実習生、他施設等の見学の受け入れも実施しており職員も初心に戻る機会にしている。	○	今後も実習生の受け入れを積極的に行い、職員も初心に戻る機会等にして、事業所としての質の向上にさらに努めていきたい。また、地域の住民が事業所に来やすいような工夫(行事、教室)等を検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、ミーティング等で報告をし、具体的にどうしていけばよいか議論し、改善に取り組み、サービスの質の向上に努めている。	○	今後も自己評価に職員全員で取り組み、職員の意識合わせ、ケアの見直し、改善につなげていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告を行い、また、市担当者、民生委員、家族代表を交え、メンバーからの率直な意見、要望をもらい、より一層の改善へとつなげている。	○	お互いに率直な意見、要望等がでやすくなり、ますます、よりよいサービス向上につなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との接触の機会は度々設けており、相互の情報提供や実態等を共有して、資質向上に取り組んでいる。	○	今後も、ますますグループホーム協議会や、他グループホームとの連携を深めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホーム連絡協議会等の講習会に参加したり、勉強会を開催して職員の理解を深めている。	○	今後も、入居者や地域の方々の権利擁護事業に協力していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での虐待はないと思う。ただし、言葉に対する暴言等には特に注意を払っている。	○	今後も、職員同士がお互いに、意識を高め、気づき合い注意し合いながら、虐待ゼロ体制を確立したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、家族に説明を行い、納得を得ている。	○	今後も入所前に見学等して頂き、わかりやすく、十分な説明を行い、事業所として出来ること、出来ないことも、納得して頂けるようにしたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員側から話かけ、コミュニケーションをとり、利用者にとって話やすい環境を作れるよう心掛けており、仮に苦情等があった場合には、申し送り、ミーティング等を行い対応している。	○	小さな意見、不満、気づき等も受け入れ、管理者や職員で話し合い改善していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、生活状況等を話し、月1回のお便りにて報告をしている。また、日常生活の様子等、写真も同封し個々に合わせた報告を行っている。異動、金銭管理等についても、面会時に報告を行っている。	○	個々の家族との連絡を密にし、各利用者の状態を報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や手紙、及び、家族会で問いかけを行い、苦情、要望を話せる雰囲気作りに留意している。また苦情発生時は、職員ミーティングで話し合っ、反映するようにしている。	○	今後、更に、出された意見、要望等は記録に残し、ミーティング等で話し合い、サービスに反映していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、週1回のミーティング時に職員からの意見を聞き反映させている。	○	今後も引き続き、月1のミーティング、個別面談等の機会を設け、各職員の意見を聞くようにし、改善に役立てたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況に応じた対応が出来ている。	○	入居者の状態等に合わせ、臨機応変な勤務(早出・遅出)等、を取り入れることを検討していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	部署替えの移動は年に1回あるが、入居者には特に変化なく支援できるよう説明を行ったり、引継ぎの期間を設ける、少人数の移動等で、最善の努力を行っている。	○	なじみの職員が対応し、なじみの関係の中で、生活して頂ける環境作りを大事にしていきたい。また、職員が代わる際には、引継ぎの期間をとって、利用者・職員が共にスムーズに移行できるよう配慮を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外で研修を行ったり、職員が希望する研修に参加し、資質向上に努めている。	○	今後も施設内外の研修に出来るだけ多くの職員が参加し、また、それを皆で共有し、事業所全体の質の向上に努めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会等で知った、他事業所の優れた意見や経験・実践をケアに活かすようにしている。	○	他グループホーム等の見学等を取り入れ、他グループホームとの交流を盛んにし、相互のサービスの質の向上につなげたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各週の職員会議、月1回のミーティングの時に気軽に相談、話し合いの場を設け、ストレスを軽減する為の環境作りに取り組んでいる。また慰安旅行、食事会等の機会を設けている。	○	今後も職員の話をよく聞き、各自のストレス等を把握し、日々ストレスを緩和する取り組みを行っていききたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年度毎に、個別の面会、アンケート等を実施し、個別職員の業務や思いを把握するよう努めている。	○	今後も運営者と職員が連携を深め、職員が相談しやすい環境作りに努めていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面接し本人及び家族とよく話をしたり、情報等により生活状態を把握出来るように努め、本人の思いに向き合い、本人に受け入れられるような関係作りに努めている。	○	初期の時期より、よく話を聞いて、信頼関係が構築され、本人の思い、要望等が引き出せる雰囲気作りに努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と密に話をし、これまでの状況や困っていること等、家族が求めているものを理解し話し合い、サービスにつなげる努力をしている。	○	これまでの経緯についてゆっくりと話を聞く機会を設け、事前に対応等について十分に話し合い、その後の関係の構築にも繋げていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の思いや状況を把握して、改善に向けた支援の提案をしたり、必要としているサービスを見極め、家族の意向に沿うように対応している。	○	今後も地域のケアマネージャー等と連携をしながら、必要に応じて、他のサービス機関につなげる等し、対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の意向に沿ったなじみの環境を作ったうえでのサービス利用を行っている。	○	安心し納得しながら、サービスを利用することが出来るよう希望に沿った、段階的な柔軟な支援の工夫を家族と共に進めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、職員と一緒に楽しみ、不安を共に分かち合う気持ちで接している。また、生活の中で、利用者に対して教えてもらう場面作りを行っている。	○	これまでの人生経験を尊重しながら、相談を行ったり、共に支え合う関係作り、場面作りを大切にしていきたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子をきめ細かく伝え、情報を共有し本人と一緒に支えていく協力的関係を築いている。	○	家族の思いを理解しながら、要望や意見等を気軽に言い合える関係作りを大切にしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事に家族を誘って、一緒に楽しんでもらえる機会を作ったり、本人から家族宛にお手紙を書いてもらったり、本人の日頃の状態をこまめに報告している。また家族訪問時には、本人と家族の潤滑油になるよう努めている。	○	引き続き、本人、家族のお互いに対する思いを見極めながら、一緒に過ごしてもらう場の提供をしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人、友人と会う機会を設けて、継続的な交流が出来るように働きかけている。	○	一人ひとりの生活習慣を尊重し、知人、友人と継続的な交流が出来るように働きかけている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、利用者同士の協力的関係や、個性をうまく活かす配慮をしながら、環境作りに努めている。	○	孤立、孤独感を持たせないように、個別・集団コミュニケーションや、相談業務を密に行い、関連支援体制の確立を図っていきたい。 社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談の内容に応じて、他機関紹介や、連絡調整を行い、次に繋げる相談や、その意向に沿った対応を行っている。	○	今後も退所等された方にも、行事、催しの案内を出す等し、入居中でも退所されてもご縁が合った方々との関係を大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話、行動、表情等から本人がどうしたいのかを汲み取り把握に努めている。意思疎通の困難な方には家族から意思を聞いたり、相談を実施している。	○	今後も一人ひとりの思いや意向について、本人の視点に立って意見を出し合い話し合っていくように、取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身のお話や、家族、知人等の訪問時等に情報を聞いて、把握に努めている。	○	折に触れ、家族や本人にどんな生活をしていたのか等を聞き、把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間アセスメントシートを作成し、利用者1人ひとりの生活リズムの把握をするとともに、出来ること出来ないこと及び行動、動作等より感じとり、その人全体の把握に努めている。	○	今後も職員同士で、本人の行動や言動を共有し合い、本人の全体像を把握出来るように努めていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が楽しく暮らせるよう、日頃より本人及び家族に思い、意見を聞いている。また、アセスメントを含め、それらをもとに、職員間で意見交換やモニタリングカンファレンスを行い、その時の現状に応じた計画を作成している。	○	今後も一人ひとりの、その時々に応じた柔軟な計画を作成して、対応していくように努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した見直し期間以外でも、体調、状態の変化時、及び、本人、家族の要望、ニーズ発生時には、即ミーティングを行い、その時の現状に応じた新たな計画の作成を行っている。	○	今後も状況に応じた臨機応変な見直し等の対応を行い、きめ細かなサービスに努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者毎に個人記録を用意し、バイタル、水分、食事量、排泄状況、心身状況を日々記録している。全職員が確認、把握をし情報の共有を行っている。	○	個別記録を基に、介護計画の見直し、評価を実施している。ニーズの発生時には、柔軟に計画の変更を行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望あればショートを受け入れを行ったりと、本人、家族の希望や状況に応じて支援している。	○	今後も、利用者、家族の状況、意向に応じ、変化に柔軟に対応し、色々な社会資源の活用も視野に入れながら、支援を実施していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域町内会、消防署、民生委員等と協力しながら支援している。また、ボランティアの受け入れ、園児との交流も実施している。	○	今後も、本人と地域の資源の掌握と把握に努め、継続的に活用できるよう、取り組みを行ってきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	移動図書館の利用、本人の希望や体調に応じて、訪問理容を利用している。また買い物を楽しめる方には、職員同伴の下、援助している。	○	今後も引き続き、ケアマネジャーとの連絡を図って、必要に応じて、事業所以外のサービスにつなげることが出来るように努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者は地域包括支援センターと交流し情報交換を行い、協働している。	○	今後も、ますます交流をし、連携を強化していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意の下、かかりつけ医による2週間に1回の往診を受けている。また状態変化時には、連絡をし、適切な対応の指示を受け、支援を行っている。	○	今後も、家族の協力の下、家族同行の受診、または通院介助を行い、お互いに、協働して行ってきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族に相談し受診している。また、月に2回、定期的に往診を受けられ、常時、状態観察を行っている。	○	今後も、いつでも相談等が出来る関係を維持し、入居者一人ひとりに応じた指導、助言をもらっていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同敷地内に医療連携看護師がおり、常に利用者の健康管理や、状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、日頃の健康管理についても、相談、助言を受けている。	○	気軽に相談出来る、看護師を確保しており、また、看護師と医療機関との連携も密に出来るようにしている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人の状態、支援等に関する情報を提供している。また、退院可能な場合には速やかに、医療機関、家族との話し合いの機会をもって、回復状況等、速やかな退院支援に結びつけている。	○	今後も、関係医療機関や家族と十分に話し合い、相談し合いながら、早期退院が出来るように支援をしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、高齢化の為、家族、本人の同意を得た上で状態の変化ごとに報告を行い、注意を払い支援につなげている。	○	本人、家族の思いを大切にしながら、状態、症状に適した環境を早期に検討していきたい。また、状態、症状によっては、グループホームでは限界もあるので、主治医、家族との連携により検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の気持ちを大切にしながら、医師、医療連携従事者、職員が連携をとり、安心、納得した最期を迎えられるよう、繰り返し話し合いを行いながら、取り組んでいる。また、急変の場合には、すぐ対応してもらえる主治医とも連携を密に図り、対応している。	○	医療機関とも密に連携を図り、入居者が安心して過ごしていけるよう取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院、退去時にはグループでの生活等を関係機関に情報提供している。	○	今後も、これまでの暮らしの継続性が損なわれないよう、情報を提供し、関係者の協力を得て、取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング等の折に、職員の意識向上を行っている。また、全職員が、利用者の自尊心、プライバシーを損ねないような対応に心がけ、日常的に確認し合っている。	○ 職員間でお互いに注意し合う環境作りを行い、更なる意識の向上に努めたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の好み、希望を聞き行っている。衣類、ヘアクリーム、化粧品、髪飾り等は本人の好みに合わせ使用している。月に1回、希望に応じ、理髪師により散髪を行ってもらっている。	○ 日常生活の中で本人の意志を尊重し、自己決定出来る支援作りを取り入れていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは作っているが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある柔軟な支援を行っている。	○ 一人ひとりの状態に応じて、活動やお出かけ等、柔軟な対応をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の好み、希望を聞き行っている。衣類、ヘアクリーム、化粧品、髪飾り等は本人の好みに合わせ使用している。月に1回、希望に応じ、理髪師により散髪を行ってもらっている。	○ 今後も、入居者の使い慣れた化粧品等、いつでも使えるようの準備し、鏡に向かう時間等を多く取り入れていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯の炊けるにおいを感じてもらったり、味噌汁作り、メニューについての話をしたり、一緒に食事をつぎ分け、片付けをし、食事にまつわる話をし、食欲を引き出す雰囲気作りを大事にしている。	○ 今後も形態の工夫をし、目でも楽しんでもらう。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は1人ひとりの嗜好品を理解しており、本人の様子、状況等を見ながら、それを楽しめるように支援している。(ジュース、菓子、甘いもの等)	○ 本人の状況(健康状態等)に応じながら、好きな物を楽しめるよう、対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別に時間誘導を行う等のほか、状態に応じて対応をしている。	○	時間誘導も含め、本人が訴えられる時は、常時、誘導を行い、パッド内に失禁がない様に心掛け、支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、週に3回入浴しているが、本人の希望等を聞き、いつでも自由に、入浴、シャワ浴ができるように支援している。	○	汗ばむ季節には、シャワー浴を行ったり、状況に応じ、いつでも入浴出来るように支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状態に応じて自室で自由に休んでもらったり、夜に眠れない方には居室にてコミュニケーション等を取り支援している。	○	一人ひとりの生活リズムは異なっているので、生活習慣や一日のリズムを整えるように心掛けている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来ることを大切に、掃除機かけ、洗濯物干し、たたみ、食器拭き、花の世話、台所仕事等を、依頼したりし、生活歴を活かせるよう支援している。	○	今後も日々の暮らしの中で、楽しみや役割を少しでも多くもってもらうように心掛けていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に合わせて金銭管理を行っている。外出、行事時には、自分でお金を払って頂けるよう、お金を手渡す等の工夫をしている。(買い物等)	○	個別に外出する機会を定期的に作り、本人がお金を出すことで楽しんでもらえるように、取り組んでいきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節感を肌で感じてもらう為に花見、ドライブ、買い物等に出かけ、外出の機会を作り支援している。	○	一人ひとりの習慣、楽しみごとに合わせて、個別に出かけることが出来るよう計画を行っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力で個別に出かける機会を作り、支援している。	○	今後も身体状況に応じ、外出の機会を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお便りの中に、自筆のお手紙を入れる等している。出来る方は電話利用も行っている。	○	今後も、アクティビティとして、文字を書く機会も確保して、残存機能の維持向上も意識し、取り組んでいきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来れるよう訪問を積極的に受け入れ、必ず挨拶をし、お茶を出す等、居心地良く過ごせるよう心配りを行っている。	○	今後も、家族の方がいつ訪問しても、居心地が良く感じてもらい、気軽に訪問しやすい雰囲気作りに努めていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしない介護を心掛けている。特に言葉かけ等も心かけている。	○	今後も、身体拘束に関する研修会等には参加し、さらに意識づけていきたい。また、スタッフ間で、その日のケアを振り返りお互いに指摘し合っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関、居室等を、開放している。	○	今後も、その時々の入居者の状態に応じて、開放し、鍵をかけないケアを行えるように、努めていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の様子は常に見守りを行い、また、職員で声かけあい安全第一に支援している。	○	今後も昼夜共にプライバシーに配慮を払いながら、安全に過ごして頂くよう努めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各自の状態に応じて刃物等は管理している。また、刃物使用時は、必ず職員が側につき、危険のないようにしている。	○	入居者の関心や能力を見極めながら、見直しを行い、対応していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	少しでも危険に思った場合には、ヒヤリ・ハット簿に記録を作成し、職員間で共有し事故の防止に努めている。	○	ヒヤリ・ハット報告や、危険への気づきを収集し、スタッフ間で共有し、事故防止策につなげていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作成し、周知徹底をしている。また、応急手当の勉強会を実施している。	○	今後も、定期的に訓練や発生時の対応の確認等を行い、発生時に適切な対応が出来るよう、努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月20日に、様々な状態を想定した、避難訓練を行っている。また、年に数回、消防署より消防訓練等の研修を行っている。	○	今後も、地域との連携を密に行い、更なる充実に努めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者1人ひとりのリスクについては、その都度、説明を行っている。状態の変化に応じ・随時、見直しを行いながら家族とも話し合う等している。	○	今後も、ご家族と話し合いを行い、対応策を検討していきたい。
。				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に状態観察を行い、些細な変化でも見逃さないように早期発見に取り組んでいる。また、変化時には看護師に連絡、相談、処理を依頼したり、医師への連絡や指示を仰いでいる。	○	今後も体調変化等の早期発見に取り組み、速やかなスタッフ間の情報共有に努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人日誌に、各自が飲まれている薬のファイルを添付し、職員各自で理解してもらうよう指示している。	○	今後も確認を徹底し、更なる誤薬防止に努めていきたい。また、必要に応じて、薬の検討等を行い、医師、看護師に相談していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排泄チェックを記録し、服薬の検討、牛乳、野菜ジュース等の摂取、腹部マッサージ等行って、排泄に取り組んでいる。	○	今後も一人ひとりの入居者に応じ、食事、排泄、活動状況等を見直し、出来るだけ薬等に頼らず、それぞれに合った支援を行っていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者に口腔ケアの呼びかけや、一人ひとりの状況に合わせた介助、一部介助で支援し、最後に口腔内チェックを行い、清潔保持に努めている。	○	口腔ケアの重要性を研修等により、全職員、理解している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談を行っている。食事、水分摂取量は個人表に記録をし、把握している。また1人ひとりの状態に応じ、食事形態を工夫している。水分量は一日1000ccを目安とし、また体調を見ながら食事の量を調整し、食事量の少ない場合補助食品等で補給し、常に健康状態に心掛けている。	○ 今後も、各入居者のその時々に応じた柔軟な対応を行っていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成したり、看護師も交え勉強会を実施している。また、うがい、手洗い等、消毒の徹底をしている。	○ 定期的に勉強会等を行い、予防、対策を常に新しい知識、技術で行えるように努める。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾やまな板などは、漂白や熱湯消毒を行っており、台所周りや冷蔵庫の清掃にも心がけている。	○ 今後もますます、調理器具等の衛生管理に努めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	看板、季節の花、ベンチ等を設置する等し、入りやすい雰囲気作りをしている。	○ 今後も、さらに本人にとって、なじみのある居心地のよい空間を家族の協力を得ながら、その時々に入居者の状態に応じ、柔軟に対応していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるように、家具の配置、花、観葉植物、季節の飾りつけ、写真こたつ等を置いて、季節感を出し家庭的な空間作りをしている。また、入居者に合わせ、テレビ、音楽の音量、日差しにより照明の明るさを配慮している。	○ 入居者が居心地よく過ごせるように、家庭的なもの、馴染みのものを多く、生活の中で取り入れて、自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるよう、工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数人で腰掛けられるソファやベランダにベンチを置き、それぞれが自由に過ごせる空間を作っている。	○ 今後も、くつろぐことが出来る空間作りを、入居者やご家族の意見を聞きながら、その時々状態に合わせて、随時行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力も得、使い慣れた家具、布団、飾り物等を持ち込み、馴染みの環境作りを行っている。	○	今後も、それぞれの入居者にとって、なじみのある居心地よい空間を、家族の協力を得ながら、その時々々の状態等に応じて、柔軟に対応していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適時換気を行い、入居者に空調等(暑さ、寒さ)を聞いて、調節している。利用者によっては、居室に消臭剤を設置している。	○	今後も適時の換気を入居者の様子に配慮しながら、行っていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの身体機能を活かし、洗濯物干し、たたみや、食事の準備、後片付け等を共に行っている。	○	今後も一人ひとりの、その時々々に合わせた環境作りに努めていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの力に合わせて、さりげない声かけや、さりげない分かりやすい表示、見守り等で、出来るだけ自力にて暮らせる支援を、日々、検討しながら実施している。	○	本人の意向を確認しながら、なじみの物を活かして、その人らしく居心地良く安心して過ごすことが出来るよう、家族の協力も得ながら、今後も努めていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスには、ベンチ、花を置き、散歩、日光浴等、好きな時に行えるようにしている。また、物干し場を設け、利用者と共に、洗濯物干し等、行っている。	○	今後もテラス等の戸外スペースを活用し、外気浴を楽しむ等し、心身のリフレッシュを支援していきたい。また、野菜の栽培等も計画していき、楽しみにつなげることが出来るよう検討していきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者同士、語り合える楽しい空間が保たれ、つくられている。1人が皆の事を、皆が1人の事を考え、生活している。